

市民の声 (インタビュー)

昭和38年の教科書無償化が実施された頃の社会情勢や体験を三田市在住の倉垣岩夫さん(当時26歳)と河合光行さん(当時38歳)の二人にお話しをお聞きしました。

その当時は、名神高速道路が栗東・尼崎間で開通し翌年には東海道新幹線の開通と東京オリピック(第18回夏季オリンピック)の開幕が目前に迫っていました。また『所得倍増計画』を謳い経済が活性化の兆しのなかにありました。

当時の思い出

倉垣：終戦直後には教育内容が大幅に変わりましたが、教科書の改訂が間に合わず、それまで使っていた教科書を所どころ墨で塗りつぶしたりしながら授業を受けていたのを思い出します。

河合：私たちが子どもの頃は、学校から帰るとすぐに家の手伝いをしていた。勉強は二の次でした。ほとんどの人が勉強をしたくてもできなかった状況だと思います。教科書も一人ひとりに買ってもらえることは少なく、兄や姉が大事に使った後、弟や妹に譲り、教科書の内容が変わるまで順に使っていました。今のような自分だけの教科書はもつたない気がします。

教科書が無償になった時の思い

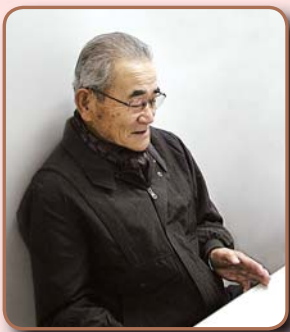
倉垣：当時給料が1万円程度と記憶していますが、子どもの人数が多いと教科書代も大きな負担になっていたのでしょね。今から考えると、目に見えて楽になったというのではないにしても、本当にありがたかったと思います。



【インタビューを受ける河合光行さん】

河合：一般的に生活がまだ苦しかった時代で、子どもたちの教科書が無償となったことも、自然に受け入れたと思います。子どもにも十分な教育を受けさせたい、学習環境を整えてやりたい、という親の気持ちは、誰しも、いつの時代も変わらないと思います。地域とのつながりそして人権への思い

河合：戦後間もない頃はそれぞれの生活で精一杯だったので、人を差別したり、されたりはあまり聞きませんでした。高度経済成長期に入り、生活が安定してきてから差別事象が増えたように思います。地域での活動は、70歳を過ぎてから老人クラブに入会し、その活動を通じて高齢者の支援をしてきました。好きなカメラを活かして、地域や遠方の小中学校などで、子どもたちの写真を撮影し、児童から感謝状をいただきました。人権フォトコンテストに応募して入選したこともあります。それらの写真は単なる記録にとどまらず、子どもたちの成長を見守る役目を担っていると感じています。そのほかにもパソコンを楽しみ、フェイスブックに登録して、たくさ



【インタビューを受ける倉垣岩夫さん】

んの方からのお返事や反応があります。そういう『人とのつながり』を大事にしたいと思っています。

倉垣：私が会長をしていた頃の本庄地域部会は区長会が主催で、いろいろな行事と重なり、本当に多忙でした。それで、地域部会を独立した組織に再編しました。また、推進委員とは別に専門部を作り、活動への熱い思いを継続できるようにしました。いろいろな研究会を模索し、人権劇にも取り組んだこともあります。その後、民生委員・児童委員を務めながら、地域のさまざまな課題について話し合いをしてきました。現在も、自分でできることをと、三田市同和教育研究協議会常任理事や地域の地域部会での活動を続けています。

三田市に期待する事

倉垣：高齢者としては、介護保険や市の施設の充実はもちろん期待していますが、何よりも弱い立場の人同士でも助け合える仕組みを作っていくことが大事だと思います。

河合：介護保険や市の施設も公平に上手に使えるような、誰もが住みやすいと感じられるような街づくりをしてほしいと願っています。

人権啓発の取り組み

本市では、年間約30回の人権啓発講座を主催し、平成23・24年度は、各年度とも受講者が700名を超えました。講座の企画・運営は市民の方々が、市人権推進課はそのサポートを行っています。開催にあたっては、市内の保育所や幼稚園、小中の各学校、各市民センターなどでチラシを配布し、広く参加を呼びかけています。また、市ホームページへの掲載や『株エフエムさんだ』のご協力を得て番組出演も行い、積極的に情報を提供しています。

日々の学習を通して、「気づいていなかったこと」「当たり前前だと思っていたことが当たり前でなかったこと」など、人権につながることを学んでいます。今後人権意識を高め、人権尊重のまちづくりを進めていくための啓発活動を展開していきます。



【平成25年度の人権を学ぶ啓発講座の様子】

編集後記

日本国憲法第14条の条文に「すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない。」とあるように、私たちが生活する中で、他の人とむやみに比較されたり、差別されたりすることなく、全ての人一人ひとりが大切な存在でなければなりません。

教科書無償運動のような『地域の運動』が、国民全体の願いへと広がり、被差別部落をはじめ、障がい者、高齢者、女性、子ども、外国人など人権問題の解決へとつながっています。今後とも人権を『学ぶ』ことの大事さや『学び続ける』ことの大切さを市民のみなさんにお伝えしてまいります。



わたしのまちの地域部会開催のお知らせ

～どなたでも参加できます～

学園地域部会

参加無料

日時：2月22日(土)
15時～17時

場所：学園小学校区県民交流広場
(学園小学校内)

講師：中尾純一さん
(極楽寺住職、元中学校教諭)

テーマ：「被差別部落」ってどこにあるの？